



ステルス枠

フルハイトドア®

施工手順書③-6

扉・金物の取付

片開き戸 Kercher製ロック付きハンドル

ステルス枠/インセット枠 施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
 ※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。
 ※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。

①木工事

①-1.ステルス枠・標準仕様 / ①-2.ステルス枠・準耐火仕様 /
 ①-3.インセット枠仕様

②クロス・塗り壁工事 (ステルス枠・インセット枠共通)

③扉・金物の取付 (ステルス枠・インセット枠共通)

③-1. 片開き戸、親子戸
 ③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)
 ③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)
 ③-4. 片引き戸(床付レール)
 ③-5. Kercher製ロック無しハンドル (BLACK LINE専用)
 ③-6. Kercher製ロック付きハンドル (BLACK LINE専用)

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④~⑨)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

④クローゼット

④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、連続開き戸
 ④-3. スライド片開き戸

⑤オートマチックドア

⑤-1. 片引き戸(上吊) ⑤-2. 片開き戸

⑥ヴェトロ・ミラノ

⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 片開き戸

⑦カエサル

⑦-1. スイング戸、両スイング戸、サイドガラスユニット
 ⑦-2. アウトセット片引き戸(上吊)

⑧マルコ

⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上吊)

⑨フィット

⑨-1. スイング戸 ⑨-2. 片引き戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)、引分け戸

施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください

注意

● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

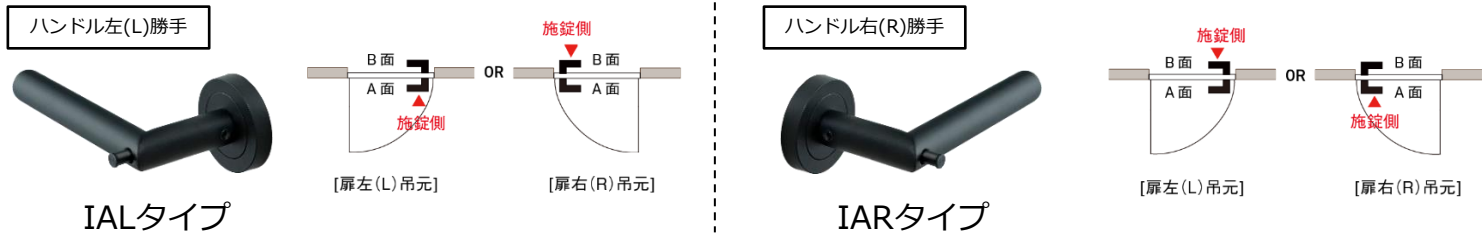
● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

Karcher製 ロック付きハンドルの取付

【注意】

- ・必ずロックボタンの長さを調整（施錠時に2mm出る）してください。
- ・ロック付きハンドルには左右勝手が存在します。扉の吊元とは異なりますので、取付ける前に十分な確認をしてください。ハンドルの型式と扉の開く向きを確認した上で施工してください。
- ・ロック付きハンドルの芯棒付きハンドルは絶対に分解しないで下さい。



梱包内容

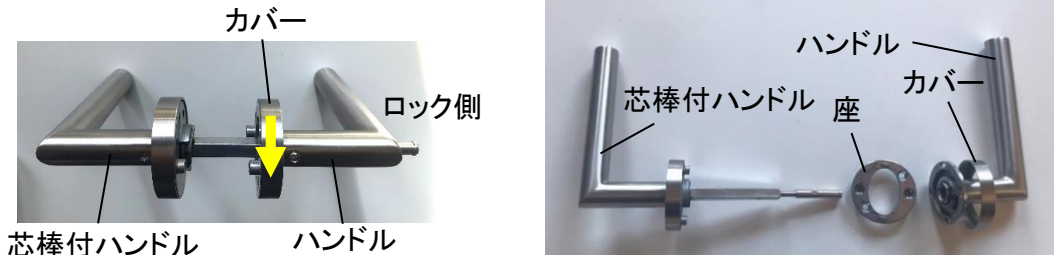
<p>ハンドルセット 1セット</p>	<p>ビス</p> <p>3x30mm : 2本 3x50mm : 2本 50mmは使用しません</p>	<p>六角レンチ</p> <p>2.5mm : 1本 3mm : 1本</p>	<p>型紙</p> <p>使用しません</p>
-------------------------	--	---	-------------------------

ハンドルセットの分解

組立て前にハンドルセットのロック側を分解します。ロック側のカバーを回転させてハンドルと座を分解します。

【注意】

芯棒付ハンドルは絶対に分解しないで下さい。



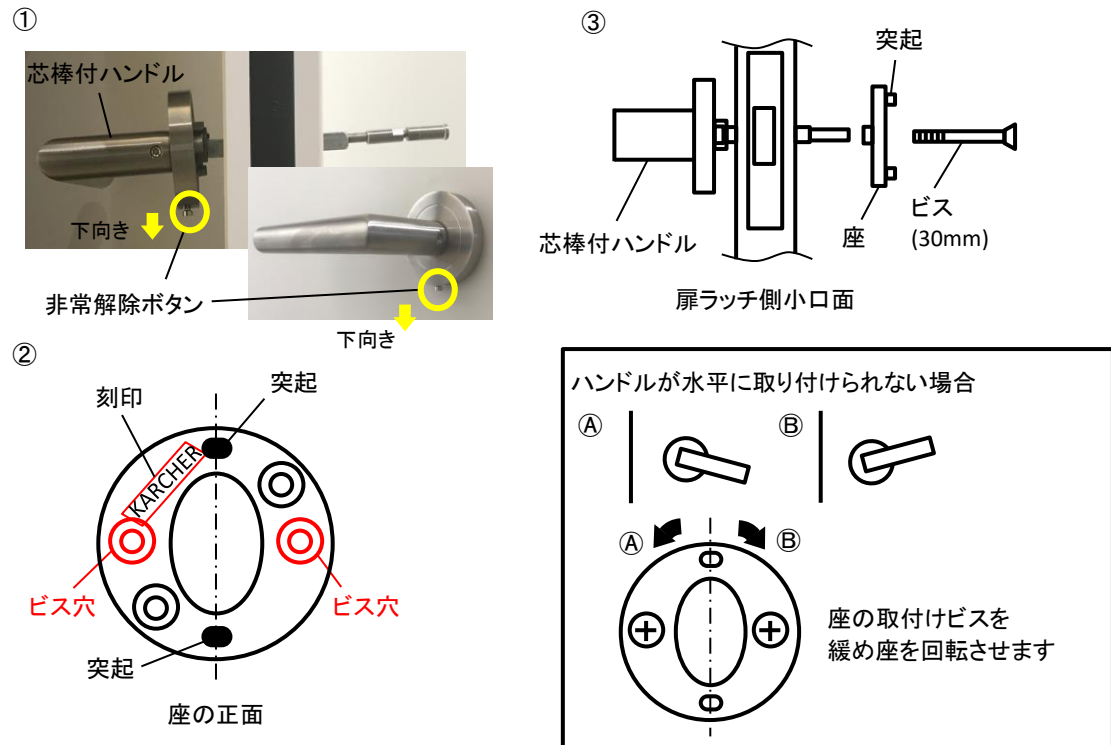
ロック付きハンドルの取付

【芯棒付ハンドルと座の取付】

- ① 芯棒付ハンドルを扉にはめ込みます。
- ② 反対側の座は“KARCHER”の刻印が有る方を表にし、突起が垂直に並ぶように取付けます。
- ③ 座と芯棒付ハンドルで扉を挟み込み付属のビス(30mm)で取付けます。

【注意】

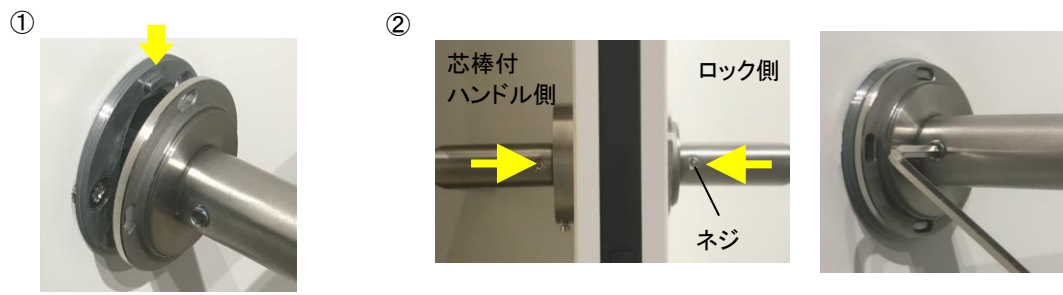
- ・芯棒付ハンドルは絶対に分解しないで下さい。
- ・非常解除ボタンが下になる様に組付けて下さい。
- ・ビスの締込過ぎに注意してください。表面材が破損する恐れがあります。



【ロック側ハンドルの取付】

①ハンドルを差し込み、座の突起にハンドルの穴を合わせて組付けます。

②ハンドルを両側から押し付けながら固定し、六角レンチ（3mm）で締め込みます。



① ②

芯棒付
ハンドル側

ロック側

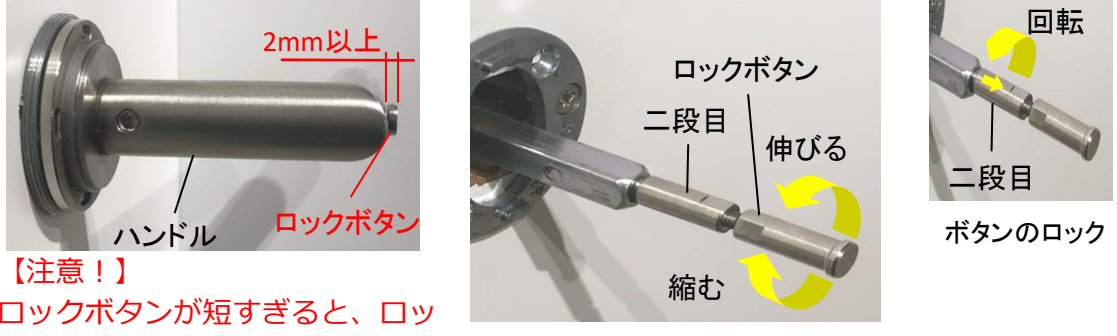
ネジ

両側から押し付けながら六角レンチでネジを締め込む

【ロックボタンの調整】

ロックボタンは**ロックした（押し込んだ）時にハンドルよりも2mm以上飛び出る様に調整**してください。

ロック側のハンドルを外し、ボタンの先端を回転して長さを調整します。調整後は2段目を回し押し付け、ボタンが動かない様にロックしてください。



2mm以上

ハンドル

ロックボタン

【注意！】
ロックボタンが短すぎると、ロックした際に穴に引っかかって非常に危険です。

ロックボタン

二段目

伸びる

縮む

ボタンの調整

回転

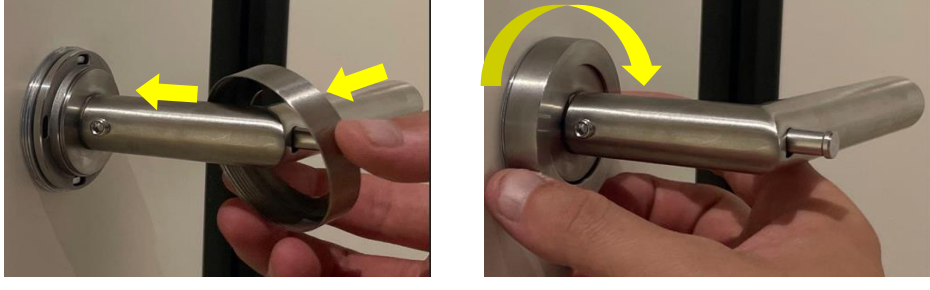
二段目

ボタンのロック

【カバーの取付】

ハンドルの先からカバーを通し、座のネジに合わせて図の様に取付けます。

【注意】
ハンドルに傷を付けない様にしてください。



【ハンドルロックの解除】

・通常時は、室内（ロック）側からの解除はハンドルを操作してください。

・非常時は、室外側の非常解除ボタンを操作してください。

【注意】
解除後は**非常解除ボタンを元に戻してください。通常位置に戻さないとロックが掛けられなくなります。**

< IARタイプの場合 >

室外側

室内（ロック側）

非常解除ボタン
通常位置

ロックボタン

室外側

室内（ロック側）

ロックボタン

・通常時

①ロック
↑ 押す

②解除
↓ 押す

・非常時

①ロック
↑ 押す

②解除
↓ 押す

非常解除後は元に戻す

枠側ラッチ受け金物の取付

クロスが乾いてからラッチ受け金物の加工部分にカッターで切り込みを入れます。**ラッチ受け金物を枠に取付る際、クロスを巻込んでください。**

ラッチ受け取付け向き

戸先枠

ラッチ受け

ビス

突起の有る方が扉の開く方向

【注意】
ステンレス枠は「クロス仕様」「塗り壁仕様」で金物の加工形状が異なります。
塗り壁仕様の塗り厚は2～3mmを想定しています。
ラッチ受けのプレートを越えない様に塗り厚を調整してください。

